

2022年度 名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校関係者評価委員会は、2022年7月20日に「2021年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

2022年9月12日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 平澤 琢二 (名古屋市中村区歯科医師会 監事)
2. 田中 裕貴 (株式会社さんぽう 企画営業第2グループリーダー)
3. 谷口 沙耶香 (歯科衛生学科 同窓会会長) 欠席
4. 中尾 聡 (学校法人 大橋学園 副理事長)
5. 服部 正巳 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校長)
6. 杉本 佳史 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務長)
7. 後藤 香織 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務主任)

オブザーバー

加藤 直美 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 学科長)

渡邊 美香 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 副学科長)

井上 玲子 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 副学科長)

三宅 孝 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務局)

以上 11名

2. 2021年度 自己評価 (2020年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：特に課題等特記事項なし</p> <p>改善策：</p>
(2) 学校運営	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：特に課題等特記事項なし</p> <p>改善策：</p>
(3) 教育活動	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：人材確保と人材の育成(教員)が急務である。学内の基礎実習の中で、現場の衛生士の意見を取り入れカリキュラムに反映させていく必要がある。</p> <p>改善策：計画的に人事採用計画を行っているが、教員になりたい衛生士がいないのが現状であり、専任教員と現場の衛生士との積極的なコミュニケーションをとっていく。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：毎年「同窓会」の案内を卒業生に送っているが、回収率が下がっている。卒業生とのつながりが</p> <p>改善策：現場で活躍する卒業生からのニーズをくみ取りながら、「同窓会」活動をもっと活発におこなうため、今後もいろいろと手を尽くしていく。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：コロナ禍となり、様々な活動の制限が続く中で「同窓会」との連携もより必要と思われる。</p> <p>改善策：「同窓会」との連携・活動も今後は活発に促進していく。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：施設設備に関して、一部改修はしたものの、不便な箇所がある。</p> <p>防災に関しては、備蓄について物理的なスペースがなく十分に確保出来ていないところもある。</p> <p>改善策：定期的に施設・設備を確認し、改修等については早め早めの迅速な対応に努める。</p> <p>備蓄の問題は命に関わることであり、早急にスペースの確保に努めていく。また、防災体制としては、避難場所の確認など学生への意識づけは繰り返し行っていく。</p>
(7) 学生の受け入れ 募集	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：学生募集について、引き続きしっかりと内容発信に努め、ミスマッチがないように努める。</p>
(8) 財務	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>改善策：特に特記事項なし。</p>
(9) 法令等の遵守	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：特に特記事項なし。</p>
(10) 社会貢献・ 地域貢献	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：コロナ禍でボランティア活動を奨励できる状況ではない。</p> <p>改善策：コロナ禍でボランティア活動はできる状態にないが、コロナ禍が落ち着いたら地域の歯科医師会活動に参加するなど再開していく。</p>

3. 2021年度 学校関係者評価 (2020年度の自己評価についての評価)

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	ほぼ適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	ほぼ適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	ほぼ適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	ほぼ適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	ほぼ適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	ほぼ適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	引き続き、教育の質の担保のために、人材採用・人材育成は必須であり、今後も学生に適切な教育を提供できるように、採用計画を進めていき学校力を高めるように努めていく。「同窓会」との連携・活動もより活発になるように努める。